

【考え・基礎知識】

仮名の基本的な線質の表し方を理解し、用筆・運筆・連綿の技法を習得する。

【つながり】

臨書学習において、基本的技能を効果的に表現することで、古典作品の特徴を創造的に表現することができる。

【応用・ひろがり】

目的に即した形式により、意図に基づく表現を構想し、工夫することができる。

- ◇ 学年 第1学年
- ◇ 単元名 仮名の書
- ◇ 単元の目標 仮名の基本的な線質の表し方を理解し、用筆・運筆・連綿の技法を習得するとともに、仮名の書の美に対する感性を働かせ、意図に基づく表現を構想し、工夫することができる。

◇ 単元計画(全10時間)

時	主な学習活動
1	・仮名の成立及び変遷について理解する。仮名の書の基本的な線質の表し方を理解する。仮名の書の用筆・運筆の技法を習得する。
2～3	・変体仮名、単体・連綿の技法を習得する。
4～6	・蓬莱切を臨書する。作品を相互鑑賞し、臨書作品を改善する。
7～10	・蓬莱切の和歌を用い、散らし書き作品を創作する。→ 本時 ・作品を相互鑑賞する。

- ◇ 本時の目標 散らし書き作品の創作に向け、和歌の内容を踏まえ、自らの意図に基づいて表現を工夫することができる。

◇ 学習の流れ(7時間目/全10時間)

学習活動	指導上の留意事項(◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て)	評価規準〔観点〕 (評価方法)
1 本時の内容を理解し、見通しを持つ。 本時は和歌を用いて散らし書きの作品を創作することについて理解する。 2 課題意識を持つ。	<活用させたい知識・技能> ・古筆の紙面構成を参考に、構成を工夫すれば、意図に基づく表現ができることを知る。	【課題発見】 構成の工夫により、様々な表現効果が生まれ、意図に基づく表現が可能になることに気付かせる。
発問例 「紙面構成の工夫にはどのようなものがあり、どのような表現効果が生まれるだろうか。」		
3 本時のめあてを確認する。 めあて 和歌の内容を踏まえた効果的な散らし書き作品を完成させよう。	◇構成の工夫点として、文字の大きさ、書き出しの位置、行間の広狭等に注目するよう促す。	
課題 「どのような紙面構成の工夫をすれば、和歌の内容を踏まえた効果的な表現ができるだろうか。」	◆和歌の内容を再度確認させる。	・仮名の書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。 〔書表現の構想と工夫〕 (ワークシート)
4 創作に向け、構成案を作成する。 複数の構成案を作成し、相互鑑賞を行い、構成において工夫した点を説明し合い、相互に改善点を述べ合う。 ペアで相互鑑賞を行ったポイントをクラス全体で共有する。	◇タブレットに自身の臨書作品の画像を取り込み、描画ソフトを用いて、複数の構成案を作成させる。 ◆古筆の構成を参考にさせる。	
5 本時のまとめを行う。 生徒のまとめ例 大空に舞う鶴をイメージし、紙面の上部に空間を取り、ゆったりとした印象を持たせるよう工夫した。	◇タブレットの画面をプロジェクタで投影し、工夫されている点についてクラス全体で確認させる。	
6 本時を振り返り、次時につなげる。 めあての達成状況について自己評価を行う。	◇ワークシートを用いて、めあての達成状況について自己評価させる。	【深い学び】 構成の工夫により、様々な表現効果が生まれ、意図に基づく表現が可能になることを実感させる。

【考え・基礎知識】
効果的な表現のポイントについて理解し、基本的な技能を習得する。

【つながり】
古典作品の特徴を効果的に表現させる。

【応用・ひろがり】
目的に即した形式により、古典に立脚した表現効果を用いて、意図に基づく表現を工夫させる。